

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

| | |
|-------|-------|
| 区 名 | 都島区 |
| 学 校 名 | 友渕小学校 |
| 学校長名 | 新 健太郎 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・友渕小学校では、第6学年249名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】平均正答率は、大阪市平均を13ポイント、全国平均を11.2ポイント上回った。
【算数】平均正答率は、大阪市平均を14ポイント、全国平均を14ポイント上回った。
【理科】平均正答率は、大阪市平均を13ポイント、全国平均を10.9ポイント上回った。
国語・算数・理科の3教科全てにおいて平均無解答率は、大阪市平均及び全国平均を下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

全ての領域において平均正答率が大阪市及び全国平均を上回っていた。これは、知識及び技能にあたる「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する事項を平素の学習の中で確実に習得し、思考力、判断力、表現力等にあたる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点をあてた学習を繰り返し進めてきた結果であると考えられる。理解したことをもとに、一人一人が自分の考えをもち、文章や言葉で表現し、伝え合う場面を設定することで国語科で必要となる資質・能力が相互に関連し合いながら育ってきたと言える。

【算数】

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域全てにおいて平均正答率が大阪市及び全国平均を10ポイント以上、上回っていた。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に留まらず、複数の解決方法を見出したり、ペアやグループで方法を比較・検討したりするなど、問題を自立的、協働的に解決する過程を重視した数学的活動を進めてきた結果であると考えられる。また、学習に粘り強く取り組み、よりよい問題解決に向かう力が高まってきたと言える。

【理科】

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域全てにおいて平均正答率が大阪市及び全国平均を上回っていた。「気づき」「問題の設定」「予想や仮説」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」という問題解決学習を進めるとともに、観察・実験を重視した学習を継続して進めることにより、実感を伴った理解を育んできた結果であると考えられる。また、主体的・対話的で深い学びを中心に据えた学習を進めることにより、獲得した知識を適用して新たな問題の解決に向かうとする態度が育ってきたと言える。

質問調査より

「分からないことやくわしく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができているか」「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」の設問における肯定的な回答の割合が高かった。これは、どの教科の学習においても問題を自立的、協働的に解決しようとする態度の表れであり、自己での解決に留まらず、他者との対話やつながりを通して、自分の考えを深め、広げることのよさを児童が実感していることの表れであると言える。また、「PCやタブレットなどのICT機器をどの程度使用しているか」の設問における肯定的な回答も高く、学習の様々な場面において学習者用端末やデジタル教科書を活用してきた結果であると言える。自分の考えをプレゼンテーション機能を活用して表現したり、グラフや図形などの変化の様子を可視化したり、観察・実験したことを動画等で検証したりするなど、学習内容の理解を強化したり、深化させたりするツールとして教師だけでなく児童も活用することができつつある。

「自分には、よいところがあると思うか」の設問における肯定的な回答は、大阪市平均及び全国平均をやや下回っていた。「自分には価値がある」「自分を大切な存在だと思える」などの自尊感情をもつ児童の割合がやや少なく、考えを対話する学習を進めることで、他者との比較を通して自己評価を下げてしまったり、他者評価を気にしたりすることにつながっている可能性が考えられる。学習の進め方を工夫し、両立を図ることが今後の課題である。

今後の取組(アクションプラン)

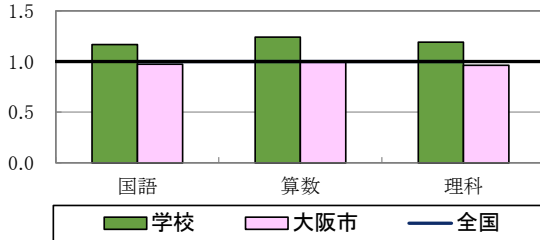
知識及び技能の確実な習得とともに、一人一人が自分の考えをもち、表現し、伝え合うこと活動を進めることにより、思考力、判断力、表現力等を育成する学習を今後も継続して進めていく。また、教科書やノートなどの紙媒体を使った学習と学習者用端末などのICTを活用した学習のハイブリッド化を進めることにより、書くことや読むことに地道かつ粘り強く取り組み、根拠や理由をもとに考える力を育てるとともに、多様な表現方法でそれらを伝えたり、比較することで考えを深めたり広げたりできる力を育てていく。また、子どもどうしで対話する活動を進める中で、認め合う機会をつくったり、互いの考えのよさを見つける視点を設定したりすることで、自尊感情を高めていく。さらに、体験して学ぶ活動や生活場面に直結するような学習を適切に取り入れることにより、知識と現実がつながり、リアルを感じる学習活動を進めていくことに今後取り組んでいく。

【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 78 | 72 | 68 |
| 大阪市 | 65 | 58 | 55 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |

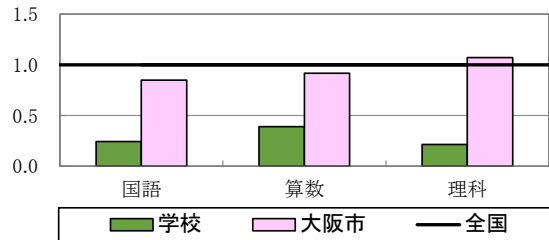
平均正答率(対全国比)



平均無解答率 (%)

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 0.8 | 1.4 | 0.6 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国 | 3.3 | 3.6 | 2.8 |

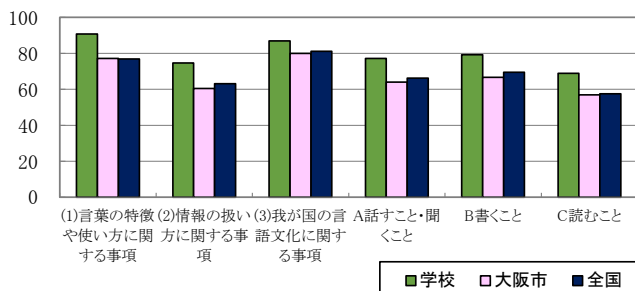
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

| 学習指導要領 の内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 90.7 | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 1 | 74.7 | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文 化に関する事項 | 1 | 86.9 | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 77.1 | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと | 3 | 79.2 | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと | 4 | 68.9 | 56.9 | 57.5 |

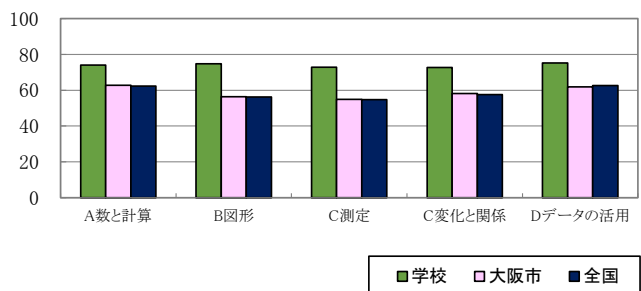
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



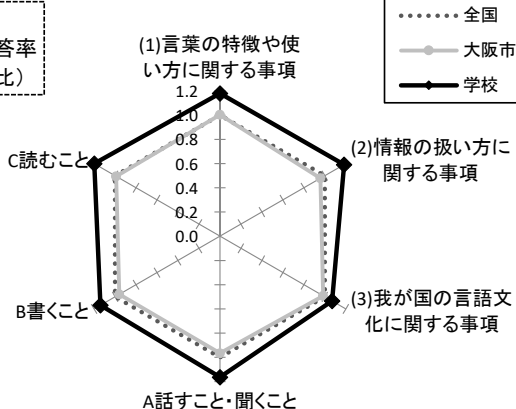
【 算 数 】

| 学習指導要領 の領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と計算 | 8 | 74.0 | 62.7 | 62.3 |
| B 図形 | 4 | 74.7 | 56.4 | 56.2 |
| C 測定 | 2 | 72.8 | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係 | 3 | 72.7 | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用 | 5 | 75.2 | 61.9 | 62.6 |

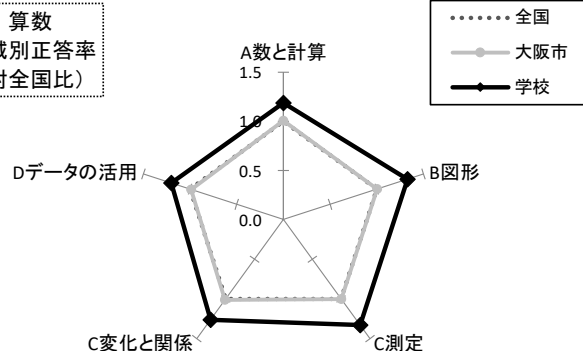
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

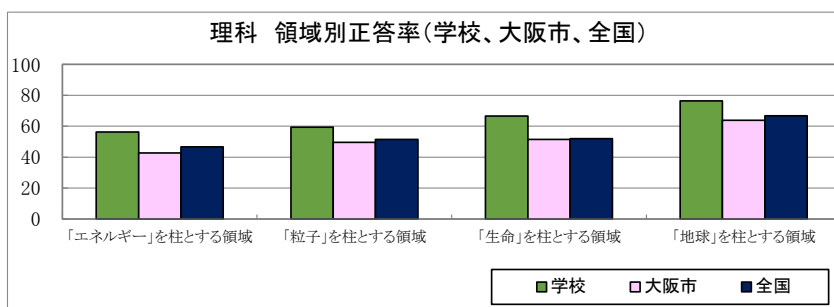


算数 領域別正答率 (対全国比)

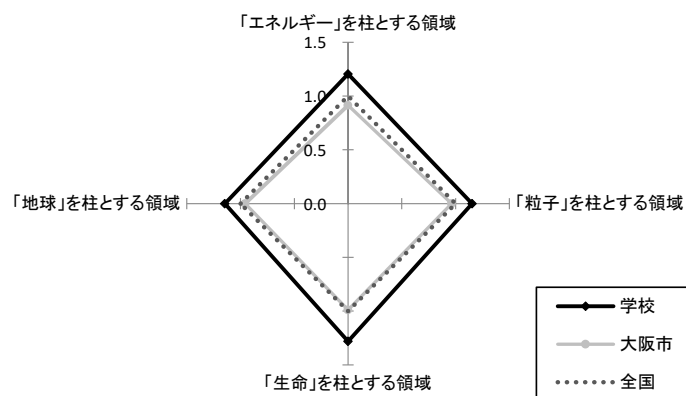


【 理科 】

| 学習指導要領 の区分・領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------|--------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 区 分 | 「エネルギー」を 柱とする領域 | 56.3 | 42.7 | 46.7 |
| | 「粒子」を 柱とする領域 | 59.3 | 49.5 | 51.4 |
| B 区 分 | 「生命」を 柱とする領域 | 66.6 | 51.4 | 52.0 |
| | 「地球」を 柱とする領域 | 76.4 | 63.8 | 66.7 |



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

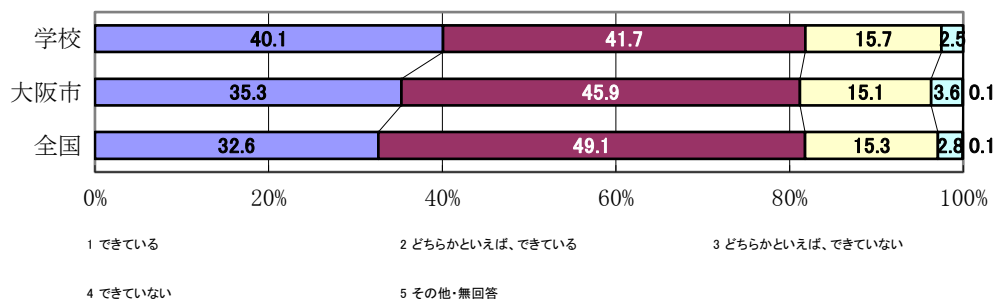
質問番号

質問事項

16

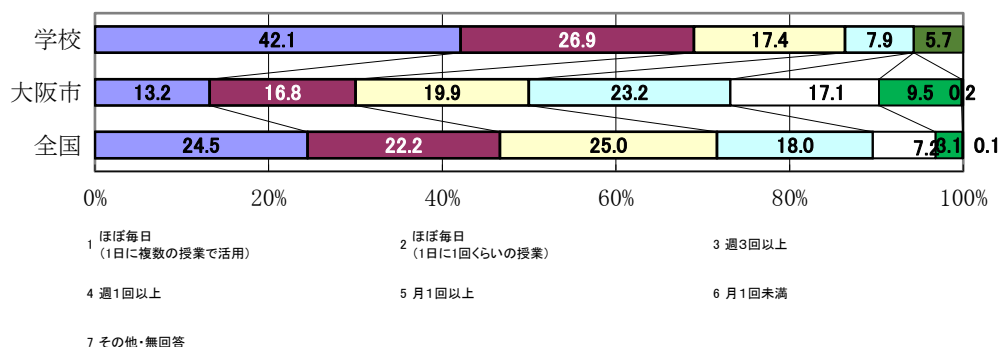
分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

1 2 3 4 5 6 7 8



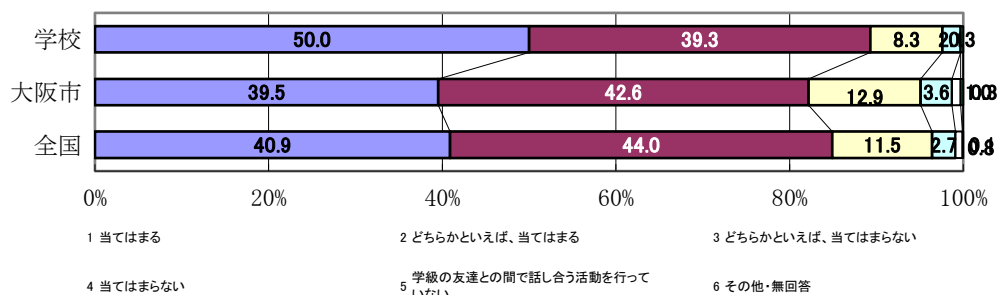
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



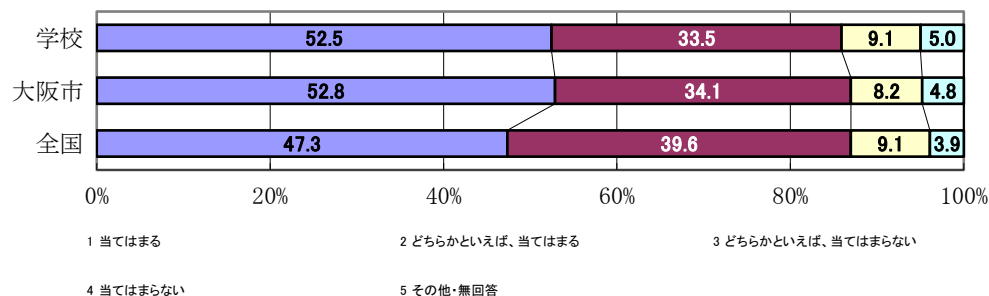
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



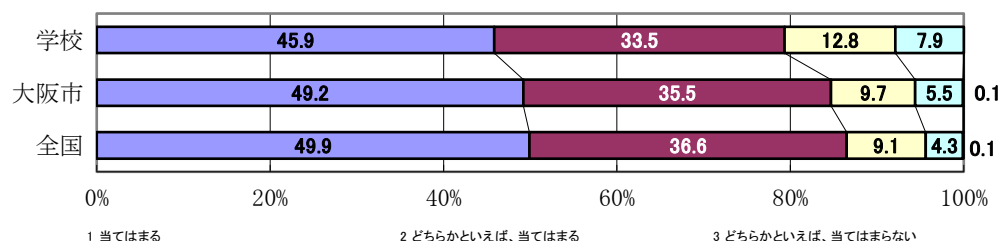
5

自分には、よいところがあると思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

質問番号

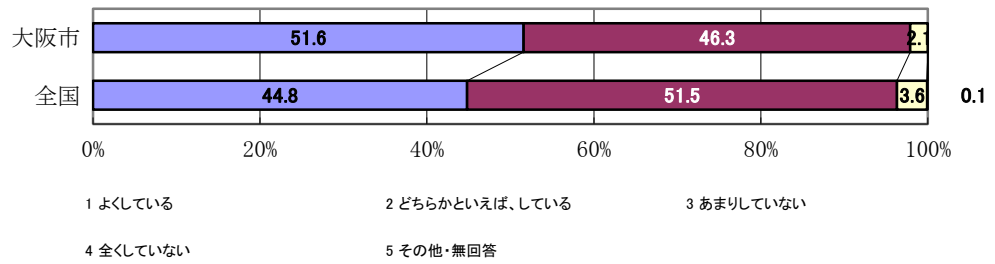
質問事項

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

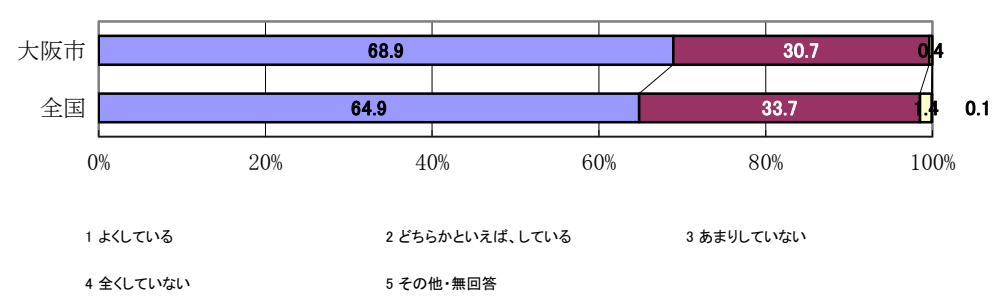
学校「」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

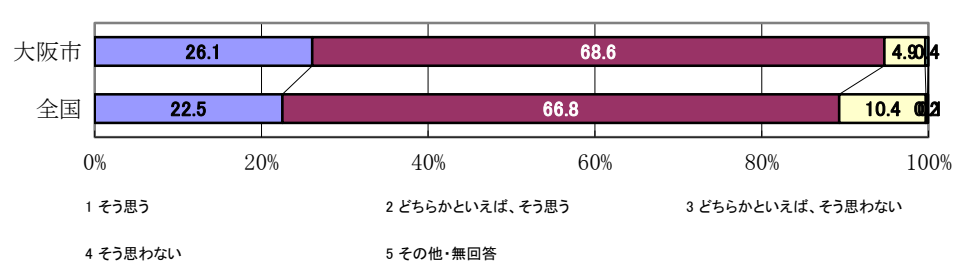
学校「」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

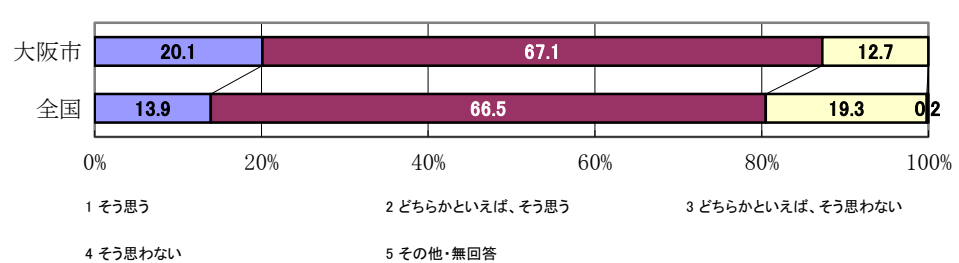
学校「」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校「」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「」を選択

